

衆院選へ結束誓う

民進党県連定期大会 会長に大島氏

民進党県連の定期大会が16日、水戸市内のホテルで開かれ、役員改選では、郡司彰県連会長の参議院副議長就任などを受け、後任の会長に衆院議員の大島章宏氏の就任を決めた。郡司氏は顧問に就き、長谷川修平幹事長(県議)が再任された。新会長の大島氏は、次期衆院選に向け、「公認・推薦候補全員当選を」と一致結束を呼び掛けた。

就任あいさつで、大島氏は「今ほど危機感を持って政治に臨んでいる状況はない。支援にしっかり応えることができるよう全力で頑張る」と強調した。

2017年度の活動方針は、県内で現在約6千人の

議員・サポーターを8千人に増やす目標を掲げ、党勢拡大に取り組みことを確認。次期衆院選に向けては、空白区となっている茨城4区の総支部長擁立を急ぐ方針も示した。

今秋任期満了となる知事



次期衆院選の勝利などを確認し合った民進党県連定期大会=水戸市三の丸

選について、長谷川幹事長は「今後議論を深めていく」と述べるにとどめた。

最大の支持母体、連合茨城の和田浩美会長は「民進党誕生から1年。新党結成の意義、目的達成へどれだけ前進してきたのか」と厳しく指摘した上で「謙虚に、真摯に着実な党運営を切望する。一致団結して次期総選挙勝利に向けてまい進してほしい」と激励した。

議員・サポーターからは「党としての対応が甘い」「もう少し厳しさを持って取り組むべき」などと選挙対策の強化、黨員らによる日常活動の徹底などを求める声が相次いだ。

大会後のパーティーに出席した江田憲司党代表代行は次期総選挙に関して「いつ選挙があってもおかしく

ない。地べたをはいつくばって活動してほしい。そうすれば必ず勝ち抜けると確信している」と述べた。
(朝倉洋)

推薦の原則3選

知事選には含み

民進・江田代表代行

今秋任期満了となる知事選を巡り、民進党の江田憲司代表代行は16日、記者団に対し、知事選の対応について「県連でしっかり考えをまとめて(党本部に)上げてほしい」と述べた。

多選への対応方針を巡っては「推薦は原則として3選まで」とする党本部の考えをあらためて強調する一方、「原則を上回る特殊な事情があれば聞く耳は持つ」と含みを持たせた。

加えて、「原則3選は旧民主党以来の方針」とし、多選に関する原則などを含め、民進党として新たに方針の再確認や見直しなどを進めていく考えも示した。